神奈川県立こども医療センター（KCMC）

小児がんセンターたより

こども医療センター創立 50 周年を迎えて

今年、神奈川県立こども医療センターは創立 50 周年を迎えました。当時私は５歳。その頃の小児がんの治療成績を見てみますと、神経芽腫、脳腫瘍、骨肉腫、急性骨髄性白血病はいずれも５年生存率がわずか 20%台でした。創立当時のカルテを見ますと、壮絶な闘いが読み取れます。それから 50 年。小児がんは全体での５年生存率が８割近くに至りました。巨大な腫瘍であっても、化学療法で小さくしてから手術、が可能になりました。各専門家たちの努力の結晶です。化学療法の進歩はとどまるところを知らず、現在では分子標的薬、そしてゲノム診断による薬剤選択の時代です。放射線治療は粒子線、手術はナビゲーション、放射線診断は MRI など画像の著しい進歩、病理は遺伝子診断、など皆が成果を持ち寄った結果が現在の治療レベルなのだと思います。

でも、どんなに頑張っても治せないお子さんがいるのも事実です。先日のこども医療センター慰霊式で、治せなかった子たちのことを振り返りました。我々がやるべきことは、まだまだたくさんあります。50 年後の 2070 年には、全てのがんが治せる時代になっていて、小児がん担当者が失業するくらいになっていればいいな、と思います。

小児がんセンター長　北河 徳彦

小児がん在宅ケア研修会を行いました

令和２年７月９日（木）に、当センター講堂にて、第５回小児がん在宅ケア研修会・在宅医療連携カンファレンスを開催しました。「COVID19 に関連した小児がん患者・経験者および、在宅療養児の生活に関連したリスクや対応について」をテーマに、２人の医師からの講義が行われました。会場の人数制限の関係にて、web でも参加できる形式で開催し、院内外から 41 名の医療関係者の参加がありました。質疑応答も活発に行われ、関心の高い内容だったと思われます。

社会情勢により、例年通りの研修会が行えていない状況にありますが、web 開催やリモート会議を通して今後とも地域の皆さんへの啓蒙活動や小児がんの支援について多職種で検討する機会を設けていきたいと思っています。

「研修会などのお知らせ」

●神奈川県小児がん従事者研修

1 月 19 日（火）学習支援・AYA 世代
2 月 16 日（火）エンドオブライフ
3 月 16 日（火）長期フォローアップ

18：00～19：00
Web 参加可能

（詳しくは、各施設に配布の案内をご確認ください）

※今年度の小児がん支援セミナー、2 月の国際小児がんデーのイベントは、残念ながら中止となりました

小児がん相談支援室
情報コーナー

～高次脳機能障害について知っていますか？～

小児がんの中で脳腫瘍の治療による合併症の一つに、高次脳機能障害という症状があるのをご存じでしょうか？成人の方で外傷や脳梗塞などにより起こることがありますが、こどもの高次脳機能障害についても、その理解と支援を広げる動きがみられています。

高次脳機能障害の症状は、主に注意障害、記憶障害、遂行機能障害などがあります。生活の中で、運動機能に大きな障害は無くても、少しだけ注意力が足りなかったり、計算が追い付かなかったり、計画が立てられなかったりする方もいます。そのような障害を持ちながらも、健康な方と共に学習などの場を共有していくために、

「合理的配慮」という環境調整の支援が求められています。これは 2016 年に施行された「改正障害者差別解消法」に示されています。教育の場や、進学や就職の場において、この合理的配慮がなされ、多くの方々がよりよい生活を送れるように、地域の方々にも知ってもらい、温かく見守っていただければと思います。先日こども医療センターにて、治療後の子どもや家族の集う機会があり、高次脳機能障害をテーマに、講演会と患者家族が語り合う場を設けました。みなさん関心が高く、積極的に意見交換をしていました。

「もっと知ってほしい
小児脳腫瘍のこと」
動画で詳しい説明が見られます

出典「NPO 法人キャンサーネットジャパン」
ホームページより

小児がんに関連したご相談は

「小児がん相談支援室」（本館 1 階 7 番窓口）までご連絡ください

時間：平日（月～金）8:30～17:00

相談方法：面談・電話・メール

電話：045-711-2351（代）　E-mail：shounigan@kcmc.jp

各部門からのお知らせ

～放射線科～

こども医療センター放射線科は、5 名の常勤放射線診断専門医と 2 名の非常勤放射線治療専門医で診断と治療の業務にあたっています。放射線科医は、小児がんの診療において画像診断と放射線治療の役割を担い、tumor board と呼んでいる小児がん症例を検討するカンファレンスにも、主治医（血液腫瘍科医）、外科医、病理診断医やコメディカルスタッフとともに参加しています。

画像診断は、X 線写真や CT 検査、血管造影検査、核医学検査などの放射線を使った検査の他に、磁気共鳴を利用した MRI 検査、超音波を利用した US 検査などを用いて総合的に診断します。小児がんの中でも、特に固形腫瘍は原発巣や転移巣の評価に画像診断は必須で、治療方針の決定、治療効果判定、治療後の経過観察・再発の有無の診断に用いられます。また、治療中や治療後に生じる様々な合併症の診断にも画像診断が必要です。放射線診断医は、画像診断だけでなく、検査の質や被ばく低減の管理、主治医からの検査の相談にも対応します。

小児がんの治療は、化学療法や外科治療、放射線治療などを組み合わせた集学的治療が基本です。放射線治療には様々な種類があり、放射線治療専門医が主治医と相談して腫瘍や患者の状態に合わせて最適の方法を検討し、治療を行います。こども医療センターでは X 線を用いたリニアック装置での治療を行いますが、必要に応じて院外での粒子線治療（陽子線、重粒子線）や IMRT（強度変調放射線治療）にも対応しています。

小児がん治療に関わるチームの一員として、これからも安全に適切な検査を行い、適切な画像診断・放射線治療を提供できるよう日々の診療に取り組んで参ります。

放射線科　野澤久美子